

月二十年六正大

土工に要する労働者は、請負業者に取りては、生産の原動力なれば、素より健全なる發達を希望する處なるも、時運の趨勢は彼等を驅つて劣悪ならしめ、労働能率の減少せる、近年著しきものあり。今試みに是を十數年前の能率に比較せんか、十に對する八にも相當せざる可し。彼等の體格は逐年羸弱に赴き勞務に耐へず、意志も亦健全を缺き、従つて労働に服するを厭ひ、動もすれば雇主に逆ひ、同盟罷業を企畫せんとす。近時其鋒鏑閃々前途を脅かさんとするの傾向なきに非す、豈寒心に堪へさらんや、大に苦慮せざる可らず。去らは今後は、收益遞増上、出來得る限り、労働者を減少し、彼等の勞力に代用するの力を機械に假り、以て業務を遂行するの覺悟なかる可らず。此點に鑑み、吾人は堀内氏か、斯の如く、銳意以て歐米の長所を採用し、斯業啓發に盡ざるゝを欣ぶ。斯る用意は民業の範圍を擴め、國家の幸福を増進するに與つて力あるを以て也。(未完)

隅田川口改良工事(其四)

東京市河港掛長技師 準員 田 村 與 吉

○河港課執務細則

第一章 總則

第一條 掛長掛員ノ事務分擔ヲ定メ課長ニ報告スヘシ分擔變更ノ場合亦同シ

第二條 更員若ハ舊人出張ナ要スルトキヘ特殊ノ事由アルモノ、外市内ニアリテハ其前日市外ニ在リテハ三日以前課長ニ其申スヘシ

第三條 課長特命ノモノ、外其掛ノ取扱事項カ他掛ニ直接關係アルモノハ其掛ニ協議シ協議調ハサルトキハ課長ノ裁斷ナ承クヘシ

第四條 左記事項ノ外掛ニ於テ外部ニ對シ文書ノ受授ヲナスヘカラス
一 成規常例ノモノ

一 請負人又ハ顧客等ニ關シ關係人ナ召喚スルトキ但召喚ハ文書又ハ電話ヲ以テ事實ヲ悉サルトキニ限ル

第五條 懸念掛員ヨリ提出スル文書ハ掛長ヲ經由シ掛員ヨリ發スル文書ハ掛長名ヲ以テスヘシ

第六條 収受文書ハ特殊ノ事由アルモノ、外三日以内處分スヘシ

第七條 往復文書ハ收受ノモノハ收受件名簿ニ發送ノモノハ發送件名簿ニ記載スヘシ

第八條 収受件名簿ハ何受第何號發送件名簿ハ何發第何號、番號ナ附シ其番號ハ一々文書ニ記載スヘシ

第九條 帳簿其他ノ際寫保存スヘシ

例規下ナルモノハ際寫保存スヘシ
第八條 決算又ハ令達等ニシテ執務上參考トナルモノハ關係課員ヘ回覧シ且ツ

第二章 廉務掛

- 第十條** 受文書ハ課長ノ査問ヲ經タル後務掛ヨリ各掛ニ配付シ掛長ニ於テ
主務掛員ニ配付スヘシ
- 第十一條** 掛員ハ各自件名簿ヲ備ヘ發送ナ別シ文書取扱ノ頃末ナ明記スヘシ
- 第十二條** 回避ハ掛長ノ名ヲ以テ提案シ北訂正改竄及緩合ノ契印ヲ以テ掛長捺印
スヘシ
- 第十三條** 工事設計費及物品買入借入并職工人夫雇入等ノ需求書ヲ受理シタル
トキハ課算并法規契約ニ關スル調査ヲ遡ケ実施ノ手續ナスヘシ前項當施決
定ノ場合ハ設計書其他必要ナル調査ノ寫本ヲ添付シ關係掛ニ通知スヘシ
- 第十四條** 顧届若ハ官公署等ノ應對文書ニシテ工事ニ關係アルモノ又ハ實地調
査ヲ要スルモノハ關係掛ノ意見ヲ徵シ且ツ法規ニ關スル調査ヲ遡ケ處分スヘ
シ但調查ニ相當日子ヲ要スルモノハ處分ニ先手上司ノ一覽ニ併スヘシ
- 第十五條** 涉深土ノ透切符及受切符ヲ受理シタルトキハ土坪ノ決定手續ヲナシ
タル上原簿ニ記載シ關係掛ニ決定通知ナスヘシ
- 第十六條** 諸舊人逃退ニ關スル具申アリタルトキハ課長ノ決裁ヲ承ケ關係掛ニ
通知スヘシ
- 第十七條** 經費ノ收支ハ決定原議其地應憑書類ニ依リ收支命令ノ提案ナスヘ
シ
- 經費ノ收支ハ簿記法ニ依リ日々記載スヘシ
- 第十八條** 物品ノ出納ハ受拂簿ニ記載シ其使用貨借ヲ明ニスヘシ
- 第十九條** 第二十五條ノ報告書ヲ受理シタルトキハ課長ノ決裁ヲ經テ工事掛ヘ
通知スヘシ
- 第二十條** 底務掛ニ左ノ報應類ヲ備ヘ置クヘシ
- 一 文書收受件名簿并發送件名簿
- 一 個人以下舊人名簿并宿所錄
- 一 個人逃退ニ關スル報應
- 一 水上建設物臺帳
- 一 工事臺帳
- 一 入札作名簿
- 一 製約保證物出納ニ關スル報應
- 一 建物船機械臺帳

第十條 受文書ハ課長ノ査問ヲ經タル後務掛ヨリ各掛ニ配付シ掛長ニ於テ

主務掛員ニ配付スヘシ

第十一條 掛員ハ各自件名簿ヲ備ヘ發送ナ別シ文書取扱ノ頃末ナ明記スヘシ

第十二條 回避ハ掛長ノ名ヲ以テ提案シ北訂正改竄及緩合ノ契印ヲ以テ掛長捺印

スヘシ

第十三條 工事設計費及物品買入借入并職工人夫雇入等ノ需求書ヲ受理シタル

トキハ課算并法規契約ニ關スル調査ヲ遡ケ実施ノ手續ナスヘシ前項當施決

定ノ場合ハ設計書其他必要ナル調査ノ寫本ヲ添付シ關係掛ニ通知スヘシ

第十四條 顧届若ハ官公署等ノ應對文書ニシテ工事ニ關係アルモノ又ハ實地調

査ヲ要スルモノハ關係掛ノ意見ヲ徵シ且ツ法規ニ關スル調査ヲ遡ケ處分スヘ

シ但調查ニ相當日子ヲ要スルモノハ處分ニ先手上司ノ一覽ニ併スヘシ

第十五條 涉深土ノ透切符及受切符ヲ受理シタルトキハ土坪ノ決定手續ヲナシ

タル上原簿ニ記載シ關係掛ニ決定通知ナスヘシ

第十六條 諸舊人逃退ニ關スル具申アリタルトキハ課長ノ決裁ヲ承ケ關係掛ニ

通知スヘシ

第十七條 經費ノ收支ハ決定原議其地應憑書類ニ依リ收支命令ノ提案ナスヘ

シ

經費ノ收支ハ簿記法ニ依リ日々記載スヘシ

第十八條 物品ノ出納ハ受拂簿ニ記載シ其使用貨借ヲ明ニスヘシ

第十九條 第二十五條ノ報告書ヲ受理シタルトキハ課長ノ決裁ヲ經テ工事掛ヘ

通知スヘシ

第二十條 底務掛ニ左ノ報應類ヲ備ヘ置クヘシ

一 文書收受件名簿并發送件名簿

一 個人以下舊人名簿并宿所錄

一 個人逃退ニ關スル報應

一 水上建設物臺帳

一 工事臺帳

一 入札作名簿

一 製約保證物出納ニ關スル報應

一 建物船機械臺帳

第十條 受文書ハ課長ノ査問ヲ經タル後務掛ヨリ各掛ニ配付シ掛長ニ於テ

主務掛員ニ配付スヘシ

第十一條 掛員ハ各自件名簿ヲ備ヘ發送ナ別シ文書取扱ノ頃末ナ明記スヘシ

第十二條 回避ハ掛長ノ名ヲ以テ提案シ北訂正改竄及緩合ノ契印ヲ以テ掛長捺印

スヘシ

第十三條 工事設計費及物品買入借入并職工人夫雇入等ノ需求書ヲ受理シタル

トキハ課算并法規契約ニ關スル調査ヲ遡ケ実施ノ手續ナスヘシ前項當施決

定ノ場合ハ設計書其他必要ナル調査ノ寫本ヲ添付シ關係掛ニ通知スヘシ

第十四條 顧届若ハ官公署等ノ應對文書ニシテ工事ニ關係アルモノ又ハ實地調

査ヲ要スルモノハ關係掛ノ意見ヲ徵シ且ツ法規ニ關スル調査ヲ遡ケ處分スヘ

シ但調查ニ相當日子ヲ要スルモノハ處分ニ先手上司ノ一覽ニ併スヘシ

第十五條 涉深土ノ透切符及受切符ヲ受理シタルトキハ土坪ノ決定手續ヲナシ

タル上原簿ニ記載シ關係掛ニ決定通知ナスヘシ

第十六條 諸舊人逃退ニ關スル具申アリタルトキハ課長ノ決裁ヲ承ケ關係掛ニ

通知スヘシ

第十七條 經費ノ收支ハ決定原議其地應憑書類ニ依リ收支命令ノ提案ナスヘ

シ

經費ノ收支ハ簿記法ニ依リ日々記載スヘシ

第十八條 物品ノ出納ハ受拂簿ニ記載シ其使用貨借ヲ明ニスヘシ

第十九條 第二十五條ノ報告書ヲ受理シタルトキハ課長ノ決裁ヲ經テ工事掛ヘ

通知スヘシ

第二十條 底務掛ニ左ノ報應類ヲ備ヘ置クヘシ

一 文書收受件名簿并發送件名簿

一 個人以下舊人名簿并宿所錄

一 個人逃退ニ關斯ル報應

一 水上建設物臺帳

一 工事臺帳

一 入札作名簿

一 製約保證物出納ニ關斯ル報應

一 建物船機械臺帳

第十一條 掛員ハ左記事項ヲ毎月一回(其月分ヘ翌)課長ニ報告スヘシ

一 材料費拂簿

一 飲品消耗品費拂簿

一 俸給及貢金拂渡簿

一 例規則

第十二條 掛員ハ左記事項ヲ毎月一回(其月分ヘ翌)課長ニ報告スヘシ

一 吏員以下傭人現在調

一 工事現在調

一 調算善引調

第十三條 工務掛

第十四條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第十五條 調量又ハ特殊ノ調査ヲ要スルトキハ區域方法期間經費核算等ヲ定

メ課長ノ決裁ヲ受ケ施行スヘシ

第十六條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第十七條 調量又ハ特殊ノ調査ヲ要スルトキハ區域方法期間經費核算等ヲ定

メ課長ノ決裁ヲ受ケ施行スヘシ

第十八條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第十九條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第二十條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第二十一條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第二十二條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第二十三條 調量又ハ特殊ノ調査ヲ要スルトキハ區域方法期間經費核算等ヲ定

メ課長ノ決裁ヲ受ケ施行スヘシ

第二十四條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第二十五條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

第二十六條 各掛ヨリ工事實施設計書及材料購賣請求書又ハ其變更調査ヲ提出

裁ナ受ケタル時額旨ニ基キ立案スヘシ

月二十一年六正大

第一回 誌

第三十一条	工事掛員ノ休日ハ左ノ如シ	七月 八月 午前八時 午後五時
一大祭祝日		九月 十月 午前九時 午後五時
一 一月二日、一月十六日、七月十六日、十月一日、十二月三十一日		十一月 十二月 午前九時 午後四時三十分
第三十二条	工事掛員出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印スヘシ缺勤遅参早退其他ノ事故アルトキハ工事掛長ニ於テ捺印欄ニ其旨ヲ記入スヘシ	
第三十三条	工事掛員早出活残ヲ爲ストキハ時間外勤務添ニ記入シ工事掛長并宿直員ノ認印ヲ承クヘシ	
第三十四条	時ニ派出又ハ船艇ニ出勤ナ命セラレタルモノハ其場所ニ出勤簿及時間外勤務簿ヲ置クヘシ	
第三十五条	工事掛長ヘ更員ノ勤怠ヲ調査シ左ノ期日迄ニ課長ヘ報告スヘシ	
一 一月給者	其月分	翌月一日
一 日給者		一日ヨリ十五日迄分
		十六日ヨリ月末迄分
		翌月一日
第三十六条	本章ニ記載シタル工事掛當員及工事監督員ノ事務ハ附屬吏員若ヘ其輕易ナル事ハ工手チニ代理セシムル事ナ得ルモ工事掛當員又ハ工事監督員ハ代理事項ニ關スル一切ノ責任ヲ負フヘシ	
第三十七条	工事掛長ハ毎年度開始前其年度ニ施行スヘキ工事計劃ノ概要及唐手渡功期日等ヲ確定シ課長ノ決裁ヲ承クヘシ次第重要ナル變更ヲ要スルトキ亦同シ	
第三十八条	工事掛ハ前條計劃ニ基キ工事ノ實務設計書試用ナ作リ着手期日一ヶ月前課長ニ提出スヘシ但課長ヨリ特ニ指示スルモノハ此限りニアラス	
	設計書ニハ施工必要ノ理由材料構造他設計上ノ説明施工方法及工事期間等ナ附記シ仕様書圖面ヲ添付スヘシ	
	設計内擇書ニハ使用スヘキ購買済材料又ハ古材等ハ其價格ヲ示書スシ	
第三十九條	工事掛長ハ隨時工場ヲ巡視シ工事ノ成績工法順序場内ハ規律及工事擔當員又ハ工事監督員ノ能否勤惰等ヲ査察シ必要ト認ムル事項ハ課長ニ報告スヘシ	
第四十条	工事掛長ハ各工場ニ傳達簿ヲ備置キ巡視ノ際工事擔當員又ハ工事監	

第五十一条	工事掛長ノ命ナカニシムルモハ工事掛員ハ其職務ヲ負フヘシ	第五十一条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十二条	風雨其他ノ事由ニ依リ工事ヲ施行シ難シ認ムルトキハ之ヲ休止シ亦必要ノ場合ニテハ休暇日又ハ規定義務時間外ト雖モ施行スルコトヲ得	第五十二条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十三条	工事掛員ハ指揮ヲ受ケタルトキハ工事掛ハ直ニ施行ノ準備ヲ整頓シ着手期日及工事擔當員ナ定メ課長ニ報告スヘシ	第五十三条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十四条	工事掛員ハ掛長ノ命ナカニシムルモハ工事掛員ハ其職務ヲ負フヘシ	第五十四条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十五条	天災其他止ム事ナ得サル事由ニ依リ工事ヲ休止シテハ課長ノ決裁ヲ承クヘシ	第五十五条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十六条	工事掛員ハ指揮ヲ受ケタルトキハ工事掛ハ直ニ施行ノ準備ヲ整頓シ着手期日及工事擔當員ナ定メ課長ニ報告スヘシ	第五十六条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十七条	工事掛員ハ掛長ノ命ナカニシムルモハ工事掛員ハ其職務ヲ負フヘシ	第五十七条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十八条	工事掛員ハ指揮ヲ受ケタルトキハ工事掛ハ直ニ施行ノ準備ヲ整頓シ着手期日及工事擔當員ナ定メ課長ニ報告スヘシ	第五十八条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第五十九条	工事掛長ハ隨時工場ヲ巡視シ工事ノ成績工法順序場内ハ規律及工事擔當員又ハ工事監督員ノ能否勤惰等ヲ査察シ必要ト認ムル事項ハ課長ニ報告スヘシ	第五十九条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの
第六十条	工事掛長ハ各工場ニ傳達簿ヲ備置キ巡視ノ際工事擔當員又ハ工事監	第六十条	直營工事の実施設計図算算式等の資料を用ひて工事掛員が行うべき業務を定めたもの

第五十三條 工事竣工シタルトキハ直ニ課長ニ報告シ尙竣工後十五日以内ニ工費精算書ヲ提出スヘシ但度年度ニ跨ル工事ニ對シテハ毎年度施行シタル部分ノ精算書ヲ作リ翌年度四月三十日迄ニ提出スルナ要ス

第五十四條 工事擔當員ハ工事豫算差引額ヲ置き當ニ工費仕拂高ヲ明確ニシ隨時其仕拂高ヲ工程ニ對照シ超過ノ處ナキヤナ精算スヘシ

第五十五條 天災其他の事故ニ依リ工事其事ニ損害ヲ受ケタルトキハ其狀況ヲ調査シ直ニ課長ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ上司ノ指揮ヲ承クヘキ逃ナキトキハ臨機應急ノ處置ヲ爲ス事ヲ得

第五十六條 工事擔當員ハ直營工事一處毎ニ工程及使用材料勞力數並其價格ヲ記載シタル工程日報及左ノ事項ヲ記載シタル工程月報ヲ作リ日報ハ翌月五日迄ニ課長ニ提出スヘシ

一、工事ノ成績
二、材料受入高及其價格
三、工事ニ使用シタル材料勞力及其價格
四、工程ハ豫定ニ達ハサルヤ否々

五、工事掛長臨檢ノ日及工事擔當員ニ指示ノ事項
六、其他必要ト認ムル事項

第五十七條 工事用物件ハ左ノ三類ニ分サテ整理スヘシ

一、船艇 機械船、曳船、土運船、鉤轆等
二、備品 器具、機械等
三、材料 材料及消耗品

第五十八條 工事用物件ノ取扱及保管ハ工事擔當員ノ責任トス但機械掛ニ於テハ特ニ物品取扱主任ヲ置クコトヲ得

第五十九條 工事擔當員ハ物件ノ種類毎ニ區分シタル帳簿ニ日々其受拂ヲ登記シ且ツ現在物件ハ常ニ分別セサム様整理スヘシ

第六十條 工事用物件ノ購賣又ハ借入ヲ要スルトキハ用意資質形狀寸法其他必要ナル註文事項並ニ需用期限ヲ記載シタル請求書ヲ作り價格又ハ使用料豫算書ヲ添付シ課長ニ提出スヘシ

第六十一條 工事用物件ヲ亡失毀損シタルトキハ保管ノ責任アル工事擔當員之ヲ辨償スヘシ但シ其ノ責メ歸スヘカラサル事故ニ起因スルモノハ此限リニア

ラス

前項ノ事實ヲ發見シタルトキハ速ニ報告書ヲ作リ之ニ掛長ノ意見書ヲ添付シ課長ニ提出スヘシ若シ盜難ニ罹リタルモノナルトキハ直ニ警務官署ニ届出ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十二條 工事竣工後ニ於ケル使用殘品其他不用ニ歸シタル物件アルトキハ返納スヘシ

第六十三條 器具機械及船艇ノ修繕製作又ハ組立ヲ要スルトキハ破損ノ原因製作組立必要ノ理由工事ノ要領等ヲ記載シタル請求書ヲ作リ機械掛ニ送付スヘシ

第六十四條 機械掛ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ調査ノ上第三十八條ニ準シ設計書ヲ作リ督工事ニ在リテハ稟議書ヲ添付シテ庶務掛ニ送付スヘシ但特ニ急迫ヲ要シ本條ノ手續ナ履ムヘキ逃ナキトキハ概要ヲ具シテ課長ノ指揮ヲ承クヘシ

第六十五條 前項ノ設計書ヲ送付スルトキハ請求書ヲ受ケタルトキハ該掛ニ於テ其必要ナシト認メタルモノハ此限リニアラス

第六十六條 特ニ急迫ヲ要スル場合ニ於ケル一廉金百圓未滿ノ請負工事但此場合ニ於テハ別ニ定ムル手續ニ依ルヘシ

第六十七條 特ニ急迫ヲ要スル場合ニ於ケル一廉工費金五拾圓未滿ノ請負工事セル事項ニ限リ課長ノ決裁ヲ承ケ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十八條 機械掛ニ於テ施行スル直營工事ニ於テ該掛ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第六十九條 物件ノ修繕製作及組立ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第七十條 機械掛ニ於テ施行スル直營工事ニ於テ該掛ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第七十一條 物件ノ修繕製作及組立ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第七十二條 物件ノ修繕製作及組立ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第七十三條 物件ノ修繕製作及組立ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第七十四條 物件ノ修繕製作及組立ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第七十五條 物件ノ修繕製作及組立ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

第七十六條 物件ノ修繕製作及組立ニ付テハ本章第二節第一款及第三節ニ規定

月二十年六正大

吏員之ヲ執行スヘシ但検査員ヲ特命スルモノ及第六十三條但書ノ工事ハ此限
リニアラス

第七十一條 前條ノ検査ヲ行フトキハ第六十三條ノ請求掛ニ立會ナ求ムヘン但
送附ノ地ニ於テ執行スルモノハ此限ニアラス

前項ノ立會員若シ検査ノ成績ニ對シ意見アルトキハ課長ニ具申スヘシ
第七十二條 調度課ヨリ物品ヲ受領スルトキハ之ヲ検査シ若シ註文書ニ對照シ
疑義アルトキハ受領前課長ノ指揮ヲ承クヘシ

第七十三條 工事用建築物ノ保管ハ當該工事擔當員又ハ工事掛長其責ニ任シ若シ
修繕ヲ要スルトキハ請求書ヲ作り第三十八條ニ準シ工費豫算書ヲ添付シ課長
ニ提出スヘシ

第七十四條 物件使用料請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ検査シ使用證明書ヲ添付
シテ庶務掛ニ送付スヘシ用證明書ニハ工事掛長及担当官署名捺印スヘシ

第三款 傷人
第七十五條 定傷々人ノ過退及臨時傷人ノ賃給ハ掛長ヨリ課長ニ具申シ臨時傷
人ノ過退ハ課長ノ決裁ヲ承ケ工事掛長之ヲ執行ス但日給五十錢以下若ハ足定
格九步以下ノ臨時傷人ノ過退ハ別ニ定ム手續ニ依リ工事掛長専行ノ上報告
スヘシ

第七十六條 工事掛ニ傷人名簿ヲ置き傷人姓名給額氏年齡採用解僕年月日其
他必要ノ事項ヲ登記スヘシ

第七十七條 工事擔當員ハ傷人點檢簿ヲ作リ毎日二回以上傷人ヲ點檢シ給料支
給額業務ノ種類其他必要ノ事項ヲ登記シ且ツ其支給額ヲ出面簿ニ記入ノ上空
日迄ニ傷人へ交付スヘシ

工事掛長ハ傷人點檢簿ニ依リ給料支給額ヲ調査シ左記期日内ニ課長へ報告ス
ヘシ

一 三月十六日ヨリ五月末迄分
一 四月十六日ヨリ十五日迄分
一 其他前月十六日ヨリ其月十五日迄分
翌月十六日迄

出スヘシ

第八十條 供給請負ノ法ニ依リ職人工夫ヲ使用セントスルトキハ種類數期間
給額業務其他必要ノ條件ヲ調查シ請求書ヲ作り課長ニ提出スヘシ

第八十一條 供給職人工夫ハ請負人ヨリ提出スル由面簿ニ依リ一日二回以上之
ヲ點検シ絶業ノ際由面簿ニ検印ヲ押捺シ退戻スヘシ

第八十二條 傷人給與金請求書ハ工事掛長及工事擔當員署名捺印シタル給與證明書ヲ添付シテ課長ニ提出スヘシ

第八十三條 供給職人工夫賃請負書ニハ由面簿ヲ添付セシメニ工事掛長及工
事擔當員署名捺印シタル使用證明書ヲ添付シテ課長ニ提出スヘシ

第八十四條 諸負工事契約決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ工事掛長ハ工事監督員
ヲ定メ課長ニ報告スヘシ

工事監督員ハ掛長ノ命ヲ承ケ所屬吏員及傷人ヲ指揮シテ監督ニ從事
第八十五條 工事監督員ハ契約書仕様書及面簿ニ基キ常ニ工事ノ施行ヲ監視シ
其方法順序ニ付注意スヘキ事項ハ課長ニ指示シ苟モ遺漏缺點アルトキハ之
ヲ指摘シテ矯正セシメ請負人ナシテ期限ナ愆ラス完全ニ竣工セシムルヲ期ス
ヘン

第八十六條 諸負工場ノ始業終業時刻ハ契約ノ趣旨ニ基キ工事掛長之ヲ定メ請
負人ニ通達スヘシ

第八十七條 諸負人ヨリ現場代理人ノ承認ヲ求メタルトキハ工事掛長之ヲ許否
シ直ニ課長ニ報告スヘシ但承認セルモノハ代理人屆ナ徵シ報告書ヲ添付スヘ
シ

工事掛長ハ前項ノ代理人又ハ職人工夫等ノ内ニ不良若クハ不適當認ムルモ
ノアルトキハ請負人ニ交換ヲ命シ直ニ課長ニ報告スヘシ

第八十八條 工事掛長ハ本課ヨリ送付ヲ受ケタル請負工費内訳書ヲ調査シ不相
當ト認ムル時アルトキハ直ニ意見ナ具シ課長ニ報告スヘシ

第八十九條 契約書仕様書若クハ面面ニ關シ請負人ト見解ナ異ニシタルトキハ
課長ニ經由ノ上決定ヲ與フヘシ

第七十八條 工事掛長ハ傷人ニ特別ニ勞務ヲ命シ加給ヲ決定スル事ヲ得但數日
連續スル勞務ニ對シ一時ニ加給セントスルトキハ課長ノ決裁ヲ承クヘシ
第一項前段ニ依リ加給ヲ決定シタルトキハ直ニ事由ナ具シ課長ニ報告スヘシ
第七十九條 傷人ニ對シ獎勵金支給ノ必要ヲ認タルトキハ案ナ具シ課長ニ提

督上ノ事績ヲ記入シ臨時掛長ノ檢閱ヲ受クヘシ

* 第九十二條 工事監督員日々請負人ヨリ出面譲り提出セシメ就業シタル職工人夫數ヲ點検シ之ニ違ハサルトキハ検印ヲ押捺シテ返長スヘシ

* 第九十三條 工事監督員ハ請負工事一箇毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル監督月報ヲ作り翌月五日迄ニ課長ニ提出スヘシ

一 工事ノ成績

二 材料検査數量及其結果

三 工事ニ使用シタル材料勞力數

四 工程ハ豫定ニ違ハサルヤ否ナ

五 請負人及工場代理人ノ行動適實ナルヤ否ナ

六 工事掛長臨檢ノ月日及工事監督員ニ指示ノ事項

七 其他要ト認ムル事項

* 第九十四條 天災其他の事故ニ由リ工事ノ遂行ヲ阻害セラレタルトキハ直ニ其

狀況ヲ課長ニ報告スヘシ

* 第九十五條 工事監督員ハ工事材料ヲ検査シ若シ不合格品アルトキハ指定區域外ニ搬出セシメ更ニ期限ヲ指定シ代品ヲ納付セシムヘシ

* 第九十六條 請負人ヨリ工費内渡ヲ請負シタルトキハ工事掛長ハ其出來形ヲ調

査シ工費内調書ノ單價ヲ依リ既済全額調書ヲ作り課長ニ提出スヘシ

* 第九十七條 請負人ヨリ工事竣功届ヲ提出シタルトキハ工事豫定ノ如

ク渉セス契約解除ヲ要スルモノト認メタルトキハ事實ヲ具シ課長ニ報告スヘシ

* 第九十八條 請負人契約條項ニ違反シ又ハ之ヲ履行セス若クハ工事豫定ノ如

ク渉セス契約解除ヲ要スルモノト認メタルトキハ事實ヲ具シ課長ニ報告スヘシ

* 第九十九條 工事竣功検査ノ上手直チ命シタル場合ニ於テ其工事竣功シタルト

* キハ工事掛長ニ調査シ其成績ヲ報告スヘシ

水 船		監 督	鋼 製	土 連	船	碎 岩	飛 機	駆 駒	業 白 玉	貴 田	形 平 駕	人 九 九
第一號		第 一 號	第 二 號	第 三 號	第 四 號	第 一 號	第 二 號	第 三 號	第 一 號	第 二 號	第 三 號	第 一 號
第二號		二 人	二 人	二 人	二 人	二 人	二 人	二 人	二 人	二 人	二 人	二 人
第三號		各二人										
第四號		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

同龜臺外各全組員各二人
品川第二第五龜臺内各二人

* 第一條 隅田川口改良工事船舶機械艇宿直
第二條 宿直ノ定員左ノ如シ

隅田川口改良工事

○隅田川口改良工事船舶機械艇宿直規程

第一條 隅田川口改良工事船舶機械艇ニハ本規程ニ依リ宿直ヲ置ク
第二條 宿直ノ定員左ノ如シ
第一條 隅田川口改良工事船舶機械艇ニハ本規程ニ依リ宿直ヲ置ク
第三條 前件後添機、碎岩機、曳船用小蒸氣船監督船員ノ内一人ハ高等船員トシ若シ高等船員一人ノミ乗組メル場合ニ在リテハ一人ハ高等船員又ハ其普通船員首席ヲ以テシ他ハ普通船員トス又鋼製土連船ニ在リテハ船夫ヲ以テ之ニ充テ各自輪番ニ擔當セシム
第四條 宿直員中上席者ハ他ノ宿直員ヲ監督スヘシ但シ鋼製土連船ニ在リテハ其所屬ニ從ヒ後添機宿直員ノ監督ヲ受ケルモノトス

第五條 現場監督員ハ其週末ニ翌週ノ宿直員ヲ定メ工場主任へ報告スヘシ

但第二條第二項ノ場合ニ於テハ宿直員ヲ變更スルコトアルヘシ

第六條 宿直勤務時間左ノ如シ但作業ノ都合ニ依リ定期間外居残り勤務ノ場合

ハ「其休業ノ時ヨリ又早出勤務ノ場合ハ始業ノ時迄宿直勤務ニ服スヘシ

一 平 日 規定期間終業時刻ヨリ翌日規定始業時刻迄

一 休 日 乙規定終業時刻ヨリ翌日規定始業時刻迄

第七條 宿直員病氣其他ノ事故ノ爲メ勤務スルコト能ハサル場合ハ現場監督員

ノ許可ヲ受ケ代理ヲ設クルコトナ得

第八條 宿直員ハ時々船内ヲ巡視シ左ノ事項ヲ注意警戒スヘシ

一 疫泊燈ノ状況

一 附屬船其他物品ノ状況

一 益難及火氣ノ有無

一 他船ノ通航

一 天候

第九條 宿直員ハ課メ重要簿書物品ノ所在シ關係者ヨリ承合シ置キ非常事態避難ニ備フヘシ

第十條 宿直員ハ天候警報ノ兆候其他非常警報アリタルトキハ直ニ河港深芝浦諸所宿直及所屬船又ハ機関長ニ急報シ且ツ機械ノ措置ナシスヘシ

第十一條 宿直員ハ取扱ヒタル事項ノ要領ヲ宿直日誌ニ記載シ翌日所屬船又ハ機關長ヲ細現場監督員ノ授印ヲ受クヘシ

第十二條 宿直員ハ左ノ行爲アルヘカラス

一 故ナク乗組船ヲ離ルル事

一 飲酒シ又ハ喧嘩ニ涉ル事

一 他人ヲ喰組マシメ又ハ宿泊セシムル事

第十三條 宿直シタル者ハ其ノ翌日引續キ勤務スヘシ但シ特殊ノ事故アルモノ

ハ運轉ニ支障ナキ限り現場監督員ニ於テ休業ナ許可スルコトナ得

第十四條 宿直シタルモノニハ明治三十三年市制令甲第二十號市吏員以下宿直

夜勤賄支給額ニ準據シ左ノ賄料ヲ支給ス

一 規定期業時刻ヨリ翌日規定始業時刻迄
一 休日規定始業時刻ヨリ當日規定終業時刻迄

貳 賄

壹 賄

日給雇ノ者公務ノ爲メ傷病ニ罹リタル場合はケル給料ノ支給方左ノ通決算成績後爲心得此段及通牒候也

日給雇ノ者ニシテ公務ノ爲メ傷病ナシ若クハ疾病ニ罹リ執務スル能ハサルトキハ其間給料ヲ支給スルモノトス

○公務ノ爲メ傷病缺勤ノ際日給雇給
料支給方

給規程

第一条 隅田川口改良工事及河川浚渫並河面埋築設備工事現場付吏員ニシテ定

時間外勤務ニ服シタルトキハ本規程ニ依リ手當ヲ支給ス

第二條 手當ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

一 事務員技手

一時間七錢

二 寢 貞

一時間六錢

第三條 手當ハ其日ノ早出ト居残トナ區別シ各勤務時間ニ應シ左ノ割引ニ從ヒ

之ヲ支給ス

一 居残勤務二時間未滿ノ時ハ手當ヲ支給セス

二 一時間未滿ノ端數ハ切捨ドス

○隅田川口改良工事及河川浚渫並海面埋築設備工事時間外勤務手當支

面埋築設備工事時間外勤務手當支
給ニ關スル件

記

一 潮汐ノ關係上現場ニ於テ工事掛日時間外勤務ノ必要アル場合ノ外時間外勤務手當ヲ支給ス
一 居残勤務ノ場合ハ退出時間迄ニ早出勤務ノ場合ハ前日退出時間迄ニ各二時間外勤務薄ニ其事由及豫定時間ヲ記入ノ上掛長ノ承認ヲ受クヘシ
一 三日以上引續キ時間外勤務ヲ要スルトキハ豫め掛長ニ於テ其事由ヲ課長

月二十号六正大

（報告スヘシ）

第一條 事務員執手ハ一ヶ月ヲ通シテ支給額金六圓雇員ハ同五圓ヲ超エシメサルコト

○運轉士機關士時間外勤務手當支給規程

第二條 開田川口改良工事ニ從事ヌル運轉士機關士ニシテ宿直ニ係ル者ヲ除ク

外定時外勤務セントキハ本規程ニ依リ手當ヲ支給ス

第二條

本規程ニ於テ時間外ト稱スルハ左ノ時間ヲ云フ

午後十二時後ハ十十分ノ、五始業時間前早出ノ場合ハ同十分ノ一ヲ給ス但

本規程ニ於テ時間外ト稱スルハ左ノ時間ヲ云フ

一 自三月一日至十月末
一 自十一月一日至二月末日
自午後六時至午前六時
午後五時至午前六時
午後六時後ハ一時間（午後五時至午前六時滿ハ切捨候ノ日給額ノ十分ノ一、
交代勤務ノ場合ニ於ケル手當ハ本條支給額之二分ノ一トス
第四條 其月ノ手當支給金ハ俸給支給我規程第一條第一項第三號ニ準シ支給ス
第五條 本規程ニ依リ手當ヲ受クル場合ニ於テハ夜勤賄ヲ支給セス

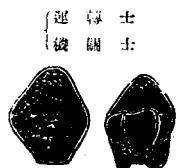
第六條 本規程ハ發令ノ日ヨリ施行ス

○開田川口改良工事用船員服制

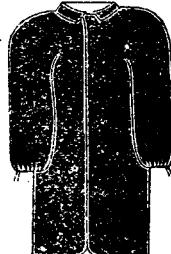
雨衣		帆雨		子		帆		地		前章		地		運		士		機關士		運轉夫、水夫、火夫、油差		
地	形	鉢	地	形	式	鉢	縫	章	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫	縫
質	狀	黑丸襪面止二個ヲ付ス	厚巾製ニシテ黒篷トス	黑丸襪面止二個ヲ付ス	小判形船員帽ニシテ圓ノ如シ夏ハ白布ヲ以テ覆	革黑色幅四分トス	革黑色綴	品質ハ黑色絲ニシテ毛線ノ幅八分一絲ヲ付ス	下部高一寸五分、上部圓ノ直徑約八寸下部圓ノ	直徑約七寸五分、上部圓ノ直徑約八寸	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
雨衣	帆雨	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	圓ノ如シ	
上	上	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	雨合羽黑色	

服制圖式

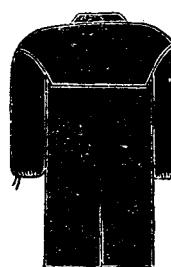
(前衣及兩袖)



前面



背面



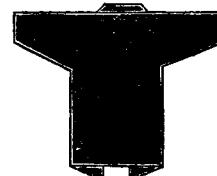
(前衣及兩袖)



前面



背面



朝章(運轉士、機關士)

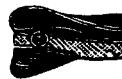


朝章(運水火油轉火夫、夫差)



朝子(運轉士、機關士)

夏へ白朝布ヲ以テ覆フ



朝子(運水火油轉火夫、夫差)

夏へ白朝布ヲ以テ覆フ



形狀	製式	鉢	衣兩
圓ノ如シ	一長サ靴上腰下及脊ノ節面ニシテ足部入前面向左分背各	ニ五個大サ腰五分五厘前合セ目ノ内側三五箇所部	黒丸大サ腰五分五厘前合セ目ノ内側三五箇所部
同	同	同	同
上	上	上	上
圓ノ如シ			

關田川口改良工事

○隅田川口改良工事浚渫獎勵金支給規程

第一條 隅田川口改良工事浚渫曳船土運船運轉三從事セル船員船夫ニヘ本規程

ニ依リ獎勵全ヲ支給ス
第二條 獎勵金ヘ別表ノ區別ニ依リ浚渫土坪曳船艘數土運船回數ノ總數ニ對シ
之ヲ支給ス但浚渫土坪十坪未滿ヘ切捨トス
第三條 浚渫土坪ヘ總テ跡跡測量ニ依リ計算ス但賣田菜平ニ於テハ土捨場前後
測ノ差ニ土運船ヲ以テ放捨シタル坪數ヲ浚渫船ノ跡跡坪ニ換算シタルモノヲ加
減シテ之ヲ定ム

出水風浪等ノ爲メ跡跡測量前浚渫區域沒セリト認ムルトキハ浚渫船坪ヲ參

酌シ相當跡跡増加スルコトアルヘシ
第四條 曳船被敷ハ鋼製土運船ヲ標準トシ往復ヲ以テ一艘トシ片道ハ半艘トシ
ヲ計算ス但浚渫機ヲ曳カシメタルトキハ片道ヲ以テ二艘トシ又木製土運船、
水船、石炭船ヲ曳カシメタル場合ニハ往復三艘ヲ以テ鋼製土運船一艘ニ換算

換算若クハ回數二十割以内ナ加ヘ又木製土運船ニシテ五百間以上ノ區間ヲ往
往復航行ヲ以テ一回トス
第六條 曳船及鋼製土運船ニシテ片道干間以上ノ區間ヲ往復航行シタルトキハ其
船名 標準津

賣田 平及		船 名	標 準	船 長	機 關 長	獎 勵	金 額	個 個	當 當
同	同	一ヶ月 塞夜ヲ通シテ 三千坪未滿	一ヶ月 標準津	一錢四厘	一錢四厘	一錢四厘	一錢四厘	一錢四厘	一錢四厘
同	同	五千坪 未滿 十坪每二	一ヶ月 標準津	二錢四厘	二錢四厘	二錢四厘	二錢四厘	二錢四厘	二錢四厘
七千坪 以上	同	七千坪 未滿 十坪每二	一ヶ月 標準津	三錢一厘	三錢一厘	三錢一厘	三錢一厘	三錢一厘	三錢一厘
三錢七厘	三錢五厘	三錢九厘	三錢九厘	二錢九厘	二錢九厘	二錢九厘	二錢九厘	二錢九厘	二錢九厘
二錢六厘	二錢三厘	一錢九厘	一錢九厘	一錢五厘	一錢五厘	一錢五厘	一錢五厘	一錢五厘	一錢五厘

復航行シタルトキハ其回數ニ五割以内ナ加ヘ計算スルコトヲ得

第七條 土炭岩其他ノ堅層ヲ浚渫遂済スル場合ニアリテハ浚渫船土坪ヘ十割以
等ナス場合ニアリテハ木製土運船回數ニ三割以内ナ加ヘ計算スルコトヲ得

第八條 船舶航行頻繁ナルカ又ハ障害物等ノ爲メ作業特ニ困難ナリトムルト
キハ浚渫土坪曳船艘數土運船回數ニ各三割以内ナ加ヘ計算スルニトナ得

第九條 脊筒式浚渫機ニシテ排泥管延長二百間以上ニ達シタルトキハ其坪數ニ
三割以内ナ加ヘ計算スルコトヲ得但二百間以上ノ場合一ヶ月ニ満タサルトキ
ハ轉運時間ノ比例ニ依リ割増坪數ヲ計算ス

第十條 第六條及前條ノ割合ハ河港課長之ヲ定ム
第十一條 獎勵金ヘ前各條ニ依リ算出シタル金額ヲ其月ノ乘船勤務日數ニ施シ
之ヲ支給セス但自己ノ都合ニ依リ退職シタル者又ハ不都合ノ所爲アリテ請免シ
タル者ニハ其月ノ獎勵金ナ支給セズ
退職早退ハ乘組勤務日數ニ算入セス

第十二條 本規程ニ依リ獎勵金ノ支給ナ受クル場合ハ時間外勤務手當並ニ歩増
ヲ支給セス但獎勵金支給目的以内ノ作業ニ從事セシタルトキハ比限ニ在ラ
ス
第十三條 河港課長ハ實地ノ狀況ニヨリ別表標準ニ斟酌ナ加ヘ支給額ヲ減スル
コトヲ得

關田川口改良工事

九三〇

羽宮綾飛 田戸瀬島			千代田形			玉白鶴及 姫及			駒形			一ヶ月營業未満 三千五百坪未満		
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	一錢一厘
五百五十隻以上	五百五十隻未滿	四百二十隻未滿	三百隻未滿	二百五十坪以上	二百五十坪未滿	五百五十坪未滿	五千五百坪未滿	五千五百坪以上	八千五百坪未滿	八千五百坪以上	六千坪未滿	六千坪未滿	三千五百坪未満	一ヶ月營業未満
四錢四厘	三錢六厘	二錢八厘	一錢六厘	十七錢七厘	十四錢五厘	六錢四厘	四錢七厘	三錢八厘	一錢七厘	三錢	二錢四厘	二錢四厘	一錢九厘	一錢四厘
三錢八厘	三錢一厘	二錢四厘	一錢四厘	一錢七厘	十錢五厘	八錢二厘	四錢七厘	三錢三厘	二錢七厘	二錢一厘	二錢二厘	一錢	一錢八厘	一錢四厘
二錢七厘	二錢二厘	一錢七厘	一錢	十二錢八厘	十錢五厘	八錢二厘	四錢七厘	二錢三厘	二錢九厘	一錢八厘	一錢九厘	八厘	一錢六厘	一錢二厘
二錢七厘	二錢二厘	一錢八厘	一錢四厘	八厘	十錢四厘	八錢五厘	六錢六厘	三錢八厘	二錢三厘	一錢九厘	一錢七厘	七厘	一錢六厘	一錢四厘
一錢		八厘	六厘	三厘						一錢			六厘	二厘

卷二十一 第一四 誌會學工

月二十九年六正大

月二十年六正大

工學會誌

第一四二一卷

木 土 運 船 積 製	一ヶ月 晝夜ヲ通シテ 六十回未滿	八十回未滿	一百回以上	同	同	同	同	同
								四錢二厘 八錢五厘 十錢六厘

○河港課傭人規程

第一條 河港課ニ於テ直傭ニ係ル工夫、職工、運轉夫、油差、水夫、火夫、船夫、潜水夫、人夫等ハ本規程ニ依リ使役ス

第二條 左記傭人ハ定傭人トシテ河港課ヨリ辭令書ヲ交付シ其他ノモノハ臨時傭人トス

一 工夫、運轉夫、油差、職工長、職工長、職工長、火水標識測人

二 本規程施行前辭令書ヲ受ケタル者

三 其他技能優秀ニシテ一班ノ長タル者又ハ功勞アル者

第三條 左ノ各號ノニ該當スルモノハ傭人ニ採用セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 感染性ノ疾患アルカ又ハ身體虚弱ナル者

三 年齡十七歳未滿又ハ五十五歳以上ノ者

但特ニ勞働ニ堪ニシテ者ヲ除ク

四 本市ニ於テ懲戒ノ爲メ解雇セラレ滿二ヶ年ヲ経過セサル者

第五條 定傭人ニ採用セラレタル者ハ三日以内ニ身元保證人連署誓約書ヲ提出スヘシ

第六條 身元保證人ハ東京府下ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ム丁年以上ノ男子ニシテ河港課長ノ承認シタル者ニ限ル

身元保證人死去又ハ前項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ選定ノ上届出ツヘシ

第七條 僕人ハ何時ニテモ無償ナ以テ解僕ヌルコトアルヘシ

第八條 定傭人ハ自己ノ便宜ニ依リ退職スルコトヲ得ス但年齢五十五歳以上ニ達シ勤務ニ堪ヘサルトキハ此限ニアラス

第九條 僕人ノ休暇日左ノ如シ

一大祭祝日

二 一月二日、一月十六日、七月十六日、十月一日、十二月三十一日

定傭人ニシテ平素勤勉ナル者ハ前項ノ外一ヶ年ヲ通シ特ニ七日以内ノ休暇ヲ與フルコトアルヘシ

第十條 僕人ノ勤務ノ時間左ノ如シ但潜水夫其他特殊ノ業務ニ從事スルモノニシテ別ニ規定アルモノハ此限ニアラス

區 別 始業 終業 休憩

三月、四月 午前七時 午後五時

五月、六月

七月、八月

九月、十月

十一月、十二月

一月、二月

同 七時

同 五時

同 七時

同 五時

同 七時

同 四時三十分

同 一時間以内

同 一時間以内

同 一時間以内

第十一條 僕人ニ業務ノ都合ニ依リ第九條休暇日及前條勤務時間外ト雖モ就業シムルカ又ハ勤務時間内ト雖モ週參早退若ハ全ク休業ナ命スルコトアルヘシ

第十三條 僕人給料ハ日給トシ其等級ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條 臨時傭人ニハ特ニ就業ナシタル者ノ外第九條休暇日ノ日給ヲ支給セス第十一條ノ場合ニ依ル休業當日ノ日給亦同シ

第十五條 規定期務時間外又ハ休暇日ニ就業セシメタルトキハ左ノ割合ニ依リ
加給ス但一時間未滿三十分以上ノ端数ハ一時間ニ計算ス

一 平日 午後十時ヨリ午前四時迄 同 同

午前四時ヨリ始業時刻迄 同 同

一日休暇 規定期務時間内 同 同

同 同 上時間外 同 日給百分ノ十五以内

交替勤務ノ場合ハ其勤務時間外ニ限リ又臨時傭人ニシテ休暇日ニ就業セシメタル場合ハ規定勤務時間外ニ限リ前項ヲ適用ス

第十六條 水中其他特別ノ勞務ニ服セシメタルトキハ河港課長ニ於テ相當加給

スルコトナシ但加給額ハ日給額ヲ超エルコトナ得ス

第十七條 働人若參早退シタルトキハ定傭人ニシテ第十一條ノ命令ニ依ル場合ノ外不就業一時間ニ付日給百分ノ十以内ヲ減スルカ又ハ全ク日給ヲ支給セサルコトアルヘン但減給一時間未滿ノ端数ハ第十一條ノ命令ニ依ル選參、早退ヲ除ク外一時間ニ計算ス

第十八條 働人ハ掛員ノ命令及上級傭人ノ指揮ニ服從シ各其業務ニ從事スヘシ

第十九條 働人ハ本規程ノ外二般ノ諸規則ハ勿論工事掛ノ定ムル諸規定ヲ遵守

スヘシ
第二十條 働人ハ誠實勤務互ニ相合シ專ラ業務ノ成績ヲ擧クコトニ努メ布モ粗暴喧嘩ニ涉ル舉動アフルヘカラス

第二十一條 働人ハ其本職以外ノ業務ニ從事セシメラルモ之ヲ拒ムヘカラス
但疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ退場セントストルトキハ掛員ノ認可ヲ受ク

ヘシ
第二十三條 天災其他非常事變ノ場合ニハ急遽業務ノ場所ニ駆付掛員ノ指揮ナ受クヘシ

第二十四條 定篤傭人病氣其他ノ事故ニ依リ缺勤セントストルトキハ當日前十時迄ニ届出スヘシ

第二十五條 故意怠慢ニ依リ工事用物品ヲ亡失損壊シタルトキハ賠償セシム
ルヘシ

第二十六條 工夫職工長其他一班ノ長タル者ハ取扱リ命セラレタル物品ニ對シ保管ノ責アルモノトス

第二十七條 左ノ場合ニ于テハ減給又ハ解僕若ハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

一 疾病勞働ニ堪ヘサルモノト認ムルトキ
一 忒情ナルモノト認ムルトキ
一 嘘嘔口論ナナシタルカ又ハ粗暴ノ行爲アリタルトキ

一 不正ノ行爲アリタルトキ
一 十五日以上缺勤シタルトキ
一 無届缺勤シタルトキ

一 貨與物品ヲ鄭重ニセサルトキ
一 嘘嘔口論ナナシタルカ又ハ粗暴セルトキ

一 其他本規定ノ義務ニ違背セルトキ
一 誓約書

私儀今較貴課何ニ御採用相成候ニ却テハ傭人規程ヲ遵守シ且御指揮ニ從ヒ誠實ニ服務可致ハ勿論身元保證人ハ本人ノ一身上及財產上ニ關スル一切ノ事項ナ引受け處辨シ御迷惑相掛申間隔候依テ連署ヲ以テ誓約書差出置候也

明治年月日

住 所

本人 何 葉

住 所

身元保證人 何 葉

葉

河港課長宛

河港課傭人賃金標準單價格

工 夫 一 圓三十錢

石 工 一 圓

普通石工手傳 一 圓

護岸石工手傳 一 圓

並 人 夫 一 圓

五十 錢

隅田川口改良工事

別表

河港課所屬倅入等級別表ノ通り之ヲ定ム

○河港課傭人等級設定ノ件

六八四一九一一一三六六七
十十十十十十十十
錢錢錢圓錢圓圓圓圓錢錢

九	七十五錢	七十五錢	六十錢	六十錢	二十三錢	七十錢	六十錢	七十五錢	二十三錢	四十錢	五十四錢
一〇	七十三錢	七十三錢	五十八錢	五十八錢	二十一錢	五十八錢	五十八錢	七十三錢	二十錢	三十八錢	五十二錢
一一	七十錢	七十錢	五十五錢	五十五錢	一	六十五錢	五十五錢	七十錢	一	三十五錢	五十錢
一二	六十八錢	六十八錢	五十三錢	五十三錢	一	六十三錢	五十三錢	六十八錢	一	四十八錢	
一三	六十五錢	六十五錢	五十錢	五十錢	一	六十錢	五十錢	六十五錢	一	四十六錢	
一四	六十三錢	六十三錢	四十八錢	四十八錢	一	五十八錢	四十八錢	六十三錢	一	四十四錢	
一五	六十錢	六十錢	四十五錢	四十五錢	一	五十五錢	四十五錢	六十錢	一	四十二錢	
一六	五十八錢	五十八錢	四十三錢	四十三錢	一	五十三錢	四十五錢	五十八錢	一	四十錢	
一七	五十五錢	五十五錢	四十錢	四十錢	一	五十錢	五十五錢	五十五錢	一		
一八	五十三錢	五十三錢	一	一	一	四十八錢	一	五十三錢	一		
一九	五十錢	五十錢	一	一	一	四十四錢	一	五十錢	一		
二〇	四十八錢	四十八錢	一	一	一	四十八錢	一	四十八錢	一		
二一	四十五錢	四十五錢	一	一	一	四十五錢	一	四十五錢	一		

附記

- 一 技術優秀又ハ功勞アル運轉夫油差ハ一圓五十錢迄火夫、水夫ハ一圓迄職工ハ一圓五十錢迄工夫ハ一圓迄特別ナ以テ増給スルコトヲ得
 一日給四十錢以下ノモノニアリテハ河港課長適當ノ額ナ定メ支給スルコトヲ得
 一本表記載以外ノ船人等級ハ河港課長適宜之ヲ定ム

○衝突船舶修理ニ關スル件

リ決定候條此段申通候也

記

- 一 從事セル小蒸氣船力操業中私有其他ノ船舶衝突ノ結果
 船ニ損害ヲ被ラシタル場合ニ於テ本市ニ責任アリコト事理明白ニシテ被害船舶修理費金拾
 五圓未滿ノモノハ隨機工場主任ニ於テ修理方策害者ト協定スルコト
 二 被害船舶修理費ハ船舶運轉目途金中雜費ナ以テ支辨シ工事ハ機械工場ニ
 於テ直督施行スルコト
 三 前第一項協定第二項工事ハ當該工場主任ニ於テ專處處分シ事由ナ具シ課
 長ヘ報告スルコト
 以上

- 陽田川口改良工事ニ從事セル小蒸氣船ト私有其他ノ船舶トノ衝突ニ關シ左ノ通
 一 陽田川口改良工事ニ從事セル小蒸氣船ト私有其他ノ船舶トノ衝突ニ關シ左ノ通

月二十年六正大

○汽罐掃除及罐水排除ニ關スル件

汽船及浚渫船等ニ据付ノ汽罐掃除及罐水排除ノ件左記ノ通り執行セラルヘク此段及通牒儀也

記

第一 汽罐ハ其使用中毎朝點火後一回底部排水傍子ヲ開キ罐水ノ一部(ノラ)水(スルニ於ナ一時半)ヲ排除シ又毎三ヶ月ニ一回其全部ヲ排除シ内部掃除及各部ノ検査ヲ爲スヘシ但特別ノ事情アリテ毎朝罐水排除ヲ爲ス能ハサルトキハ毎月一回又全部ヲ排除スヘシ

(書式)

第二 前項實施ノ狀況ハ毎三ヶ月ニ一回別紙書式ニ依リ課長ニ報告スヘシ

船名	大正年何年第何期(自何月至何月)汽罐掃除及罐水排除報書				
	一月	二月	三月	四月	五月
提出期限	罐	水	排	除	
第一期自一月四月十五日	一	月	二	月	三
第三期自七月十月十五日	四	月	五	月	六
第四期自一月六月七月十五日	七	月	八	月	九

○浚渫船其他船舶機械應急修理工事

請負契約ニ關スル件

隅田川口改貿工事用浚渫船其他船舶機械類應急修理工事ニシテ一覽見積額百圓未滿ノモノノ賃費契約ハ左ノ通り取扱フモノトス

一下名當業者ヨリ認メ契約保證物ニ充用スル爲め現金五拾圓ヲ本市へ納付シ監カシムモノトス

石川島造船所
高橋李次郎

第一條 工事用材料其他ニ準スヘキモノノ取扱ハ本規程ニ定ムル所ニ依ル得シメテ保証金ニ對スル其契約保證金ノ效力ハ一口契約額ニ對スル百分ノ十(規定ノ金額ニ相當スル額トス)一定メ本人負ニ係ル工事ハ全部保證セシムルモノトス

一 講約金ハ市、雜部金ハ收入シ置クモノトス
一 講約金ハ市、雜部金ハ收入シ置クモノトス
一 保証人ハ契約ノ都度約款ヲ署名捺印ヲナサス規定ノ義務アル保証人ヲテハ技術長トス

第一條 工事用材料其他ニ準スヘキモノノ取扱ハ本規程ニ定ムル所ニ依ル

第二條 本規程中所屬長トハ課長及之ニ準スヘキ更員ヲ云フ但貯藏材料ニ對シテハ技術長トス

第三條 所屬長ハ材料所要ノ際必要ナル資料ヲ具シ技術長ニ請求スヘシ

第四條 技師長ハ必要アリト認ムルトキハ豫メ所屬長ニ對シ年度内所要材料ノ概數ヲ報告セシメ適宜購入貯藏シ爲スコトヲ得

第五條 技師長ハ第三條ノ請求ヲ受ケタルトキハ其貯藏シアルモノハ之ヲ交付シ貯藏ナキモノハ直ニ購買ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 技師長及所屬長ハ材料検査ニ當ラシムル爲メ一名又ハ數名ノ材料検査員ヲ命スヘシ

第七條 材料ノ納入アリタルトキハ技術長及所屬長任命ノ検査員立會ノ上契約事項ニ照合シ検査ヲ執行スヘシ但時宜ニ依リ一方ノ検査員ナシテ検査セシムルコトヲ得

第八條 檢査員ニ於テ標本圓面又ハ仕様書ノ欠缺ノ爲検査ヲ執行シ難キトキハ

第九條 檢査員検査上不合格ト認定シタル材料ハ之ヲ排却シ其理由由技术師長及所屬長ニ報告スヘシ

第十條 檢査員検査ニ臨ミ採否ノ決シ難キモノ又ハ納入ニ於テ排却ヲ承諾セサルトキハ意見ナ付シ技術長及所屬長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十一條 檢査員職務執行ニ際シ納入ニ於テ之ヲ妨げ又ハ障礙其他不正行為アリト認メタルトキハ検査中止シ直ニ其旨ヲ技術長及所屬長ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ

第十二條 檢査ノ上合格シタルモノハ技術長ヨリ當該材料出納吏ニ交付スヘン

第十三條 所屬長ノ許ニ材料出納吏ヲ置ク
第十四條 材料出納吏ハ所屬長ノ命令アルニ非レハ材料ノ出納ヲ爲スコトヲ得

五 河港課長ハ隨時検査員ヲ命シ材料ノ出納保管ヲ検査セシム
以 上

第十五條 材料出納吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ整理スヘシ但別ニ補助簿ヲ設
クルコトヲ得

一 材料出納簿

工種 一金 此契約保證物 酬費高

第十六條 材料出納吏ハ毎年度終後二ヶ月以内ニ材料出納簿計算書ヲ調製シ

二 材料生産整理簿

東京市(以下市ト稱ス)ハ右工事ヲ前記金額ヲ以テ何某(以下請負人ト稱ス)ニ請
負ハシムルニ付契約スル條項左ノ如シ

第一條 請負人ハ本契約ヲ擔保スルタメ前記保證物ヲ市へ納付シ置クモノトス

若シ該負金額等ノ爲メ保證物ニ不足ナリ來シタルトキハ追納スルモノトス
第二條 何某ノ請負人ノ連絡保證人トシテ契約履行ノ責ニ任スルモノトシ若シ

保證人死亡又ハ指定ノ資格ヲ失セタルトキハ三日以内ニ保證人ヲ定メ連繋ノ
上巿へ届ケルモノトス

第三條 工事ハ何時ノ日ヨリ何日間ニ竣工スヘシ但日曜日ヲ除ケル市所定ノ公
休日及一月十六日七月十六日ハ此日數ニ算入セス

第四條 請負人ハ日常工場ニ出居シ工事ヲ擔當處置スヘシ若シ本人事故アルト
キハ主務吏員ノ承認ヲ受ケ相当代理人ヲ差出スルモノトシ但代理人ヲ不適當ナ
リト認メタルトキハ何時ニモ變更ナサシムヘシ

第五條 工事ハ別紙設計圖面仕様書工程日限書等ニ據り主務吏員ノ指揮ニ從
ヒ施行スヘシ

第六條 設計書、仕様書、工程日限書等ニ記載セサル事項ト雖モ工事上當然必
要ナルモノハ主務吏員ノ指揮ニ從ヒ請負人ノ費用ナ以テ施行スヘシ

第七條 請負人ハ工事竣工シタルトキハ市ニ届出シ検査ヲ受クヘシ
前項検査ノ結果改築又ハ手直ノ命セラレタルトキハ市ノ指定期限内ニ完成シ

更ニ届出ノ上巿ノ検査ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ第三條ノ期限ヲ猶豫セス
第八條 請負人ヨリ差出シタル工費内賃書ニ記載スル總チノ單價及施工人夫等
ノ歩掛等ニ不相當ト認ムルモノハ請負金額ヲ目的的ト訂正ヲ命スルコトアル

三 附則

第九條 工事竣功検査前ニ於ケル既済部分及材料等ノ失毀損其他ノ損害ハ總
テ請負人ノ負擔トス市ヨリ交付セル材料ニ付テモ亦同シ

第十條 諸職工人夫等ノ所爲ニ對シテハ總チ請負人其實ニ任スルモノトス
セシムルコトヲ得

第十七條 所屬長ニ於テ前條ノ計算書ヲ領シタルトキハ之ヲ調査シ意見ヲ附
シ市長ニ報告スヘシ

四 本規程ハ大正二年十月一日ヨリ施行ス

○河港課工事用材料取扱方ノ件

今般河港課工事用材料ノ取扱方左記各項ノ通り相定メ候候此段及通候也

記

一 材料出納吏ハ庶務掛ニ隸屬シ同掛長ノ監督ヲ受ク

二 各掛ニ材料出納吏輔助員ヲ派遣シ出納吏ノ事務ヲ輔助セシム
三 一廩半圓未滿ノ材料ノ検査員ハ所屬掛長ノ命ス

四 材料出納吏ノ立會ヲ要ス但材料出納吏ハ輔助員ヲシテ代理

セシムルコトヲ得

開田川口改良工事

月二十年六平大

第十一條 請負人死亡シ相続人アルモ市ニ於テ契約履行ヲ適當ナラスト認ムルトキハ本契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第十二條 市ノ都合ニ依リ工事ノ變更増減契約解除又ハ中止ナ命スルコトアルモニ請負人ハ之ヲ拒ムナ得サルハ勿論之カタメ損害アルモ市ハ却償セサルモノトス

第十三條 第十一條前款並ニ工事出來形精算ノ結果諸材料員數ヒ請職工人夫等ノ歩掛ニ着減ヲ生シタルトキハ工費内課費ニヨリ請負金ナ計算スルモノトス但工費内課費ニ依リ難キモノアルトキ又ハ内課費單價歩掛等ニ不相當ト認ムルモノアルトキハ市ニ於テ相當ト認ムルトス

第十四條 市ハ天災地變其他正當ナル事由ニ依リ期限内竣工セサル場合ニ於テ請負人ハ之ヲ延期ナ請フトキハ相當ト認ムル日數ニ限り承認スルコトアルヘン

第十五條 前條ノ事由ナクシテ竣工期限ヲ超過シタルトキハ違約金トシテ其經過日數ニ對シ一日ニ付請負金額千分ノ五ニ相当スル金額ナ納付セシムヘシ

第十六條 左ノ場合ニ於テハ本契約ヲ解除シ契約保證物ハ市ノ所得トナスコトアルヘン

一 請負人又ハ代理人ニ不正ノ行爲アントキ

二 請負人故ナク工事着手ヲ遅延シタルトキ

三 第三條期間内竣工セサルカ若クハ市ニ於テ同條期間内竣工ノ見込ナシト認ムルカ又ハ功程日闇表ノ如ク竣工セサルトキ

四 請負人契約解除ヲ請ヒタルトキ

五 其他本契約ニ違背セシムトキ

前項ノ場合ニ於テ工事既済部分及検査済材料アルトキハ之ヲ納付セシメ第十三條ニ準シ計算シタル金額ナ支拂フコトアルヘシ

第十七條 請負人ハ竣工検査済ノ内支拂フヘシ但請負人ニ於テ内渡シ請求スルトキハ何回以内支拂フコトアルヘシ

第十八條 第一條第十二條ニ依リ契約ヲ解除シタルカ又ハ請負人契約義務履行ヲ完了シタルトキハ契約保證物ヲ還付ス

第十九條 本契約所定ノ違約金其他の請負人ヨリ徵收スヘキ金額アルトキハ市ノ選擇ニヨリ請負金又ハ保證物内ヨリ扣除スルコトアルヘシ

第二十條 本契約上ノ債権ハ譲渡又ハ擔保ニ供スルコト得ス

第二十一條 前各條ノ外大正二年市告示第二十一號東京市會計規程並同年市告示第二十二號同上規程施行細則ヲ準用ス

第二十二條 本契約其他工事施行上疑惑アルトキハ東京市河港課長ノ斷定ニ據ルヘシ

第二十三條 本契約書ハ二通ヲ作製シ各自一通ヲ領収スルモノトス

年 月 日

東京市長
住 所請負人
住 所
保證人

〇労力供給人心得書

第一條 何何用(便途人夫又ハ何何)ハ本心得書ニ依リ供給ヲナスヘシ

第二條 人夫(何々)ハ身體強壯ニシテ作業上經驗アルモノトシ作業ニ必要ナル器具一切ヲ携帶セシムヘシ

第三條 供給スヘキ員數場所等ハ主務吏員ノ指定ニ據ルヘシ但本市ノ都合ニ依リ供給中止ナ命スルコトアルモ供給人ハ異議ナ申立ツルコトヲ得サルハ勿論

第四條 供給人ハ日目工場ニ出頭シ主務吏員ノ指揮ニ従ヒ供給労力者ノ取締ナスヘシ

第五條 供給労力者ハ始業前及終業後主務吏員ノ點検ヲ受クヘシ

第六條 供給労力者ハ主務吏員ノ承認ヲ經シ退場又ハ指定就業場所ヲ離ルコトヲ得ス

第七條 供給労力者中不適當ノモノアルカ又ハ主務吏員ノ指揮ニ從ハサルトキハ退場ナ命スルコトアルヘシ

第八條 第六條及前條ノ場合ニ於テハ當日ノ賃金ヲ減給又ハ全ク支拂セサルコトアルヘシ

第九條 供給労力者ノ就業時間ハ一日約十時間トシ始業終業時刻及休憩時間ハ主務吏員ニ於テ之ヲ指定ス但主務吏員ニ於テ業務ノ結合ニ依リ早出居残又ハ就業時間中ト遡モ中途退場ナ命スルコトアルヘシ

前項早出居残ノ場合ハ時間割歩着ナ支給シ又中途退場セシムルトキハ時間割

チ以テ當日ノ貢金ヲ減給ス但一時間未滿三十分以上ハ一時間ニ繰上ク
第十條 水中、其他特別勞務ニ從事セシメタルキハ特ニ相當ト認ムル歩音ナ
支給スルコトアルヘン

第十一條 供給労力者ヨリ生セシ事故ニ對シテハ一切供給人ニ於テ處辨スルレ
ノトシ本市ハ其責ニ任セサルヘシ

第十二條 供給人ハ本市指定ノ様式ニ依リ認帳ヲ調製シ日供給數量ヲ記入シ
主務吏員ノ認印ヲ受クヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テ供給人タルゴトヲ解キ且ツ損害アルトキハ補償セシ
ムルコトアルヘシ

一 供給人ニ不正ノ行爲アリタルトキ
一 供給不充分ナルカ又ハ供給労力者不適當ナルトキ
一 其他本心得書ニ違背セシトキ

第十四條 前各條ノ外大正二年三月市告示第二二號東京市會計規程並同施行細
則ヲ準用ス

○東京市「ボルーランドセメント」試験規程

第一條 本市ニ於テ施行スル「ボルーランドセメント」試験法ハ以下各條ニ定ム
ルモノヲ除クノ外明治三十八年農商務省告示第三十五號及明治四十二年同
省告示第四百八十五號「ボルーランドセメント」試験法ニ依ルモノトス

第二條 「セメント」ハ各貯槽ヲ以テ一口トシ之レヲ試験ス可シ

第三條 容器ノ外見検査ハ機造堅牢ノ度合所竝「セメント」散出ノ有無
ヲ検査シ其ノ不良ト認ムルモノ及ヒ不審ノ個所アルモノハ之ヲ損却スヘン

第四條 「セメント」外見検査ハ本市ノ指定シタル各一口ノ貯槽ニ對シ其容積ニ過不足アルモ
ス可シ

第五條 「セメント」ノ重量ハ各槽ニ就キ重量ヲ量リ其重量ヨリ空槽ノ重量ヲ控
除シタル殘數ヲ正味重量トス

第六條 試験ノ供試品ハ第二條乃至第五條ノ検査終リタル後本市ノ指定シタ
ル各一口貯槽ノ貯量ノ貯割以上ニ就キ之ヲ採取シ供試品容器ニ收メ且密封シ所定ノ要
項ヲ記載シ採取ヲ行ヒタル更員實驗器ニ封印ヲ施ス可シ

供試品採取法ハ第四條ニ依リ外見検査ヲ了シタルモノヨリ供試品ノ半數ヲ均
等ニ採取シ他ノ半數ハ鐵蓋ヲ取ラサル様ヨリ「ボルト」雜チ以テ穿孔シ金差
ニテ均等ニ採取ス可シ

第七條 「セメント」之膨脹性鑑定ニ關スル檢定ニハ浸水法及沸煮法ヲ併用スル
モノトス

但シ浸水法ニ依ル檢定時日ヲ猶豫シ得サル場合ハ沸煮法ニ依リ之ヲ檢定シ浸
水法ヲ省略スルコトヲ得

第八條 純「セメント」ノ耐伸強ハ七日間(但開水中六時間)固結セシメタル後ニ
於テ耐伸強ハ毎平方センチメートルニ付キ四十キログラム以上タル可シ

第九條 「セメント」試験ニ使用スル砂ハ玉川産洗砂トシ其節分方法等ハ總テ標
準砂ノ規定ニ準ス

○東京市工事用「ボルーランドセメント」示方書

一 諸負人ハ本示方書ニ據リ「セメント」ノ納付ヲ爲ス可シ
二 「セメント」ノ容器ニ其標造堅牢ニシテ且ツ曾テ他ニ使用セサル者タルゴト
ヲ要ス

三 「セメント」ハ細末ニシテ聊モ固形シタル部分ナク目ツ夾雜物子含有ス可リ
ス

四 「セメント」各槽ノ容量ハ三百八拾升度以上トシ其容量ニ過不足アルモ彼
是用流スルコトヲ得ス

五 「セメント」ハ本市所定ノ試験法ニ依リ検査及ヒ試験ヲ施行ス
六 試験ハ本市備付ノ器具ナシ以テ主務吏員之ヲ施行ス

但シ時宜ニヨリ他ニ依頼スルゴトアルヘン

七 諸負人ニ於テ本試験ニ立會フコトヲ請求スルトキハ之ヲ許可スルコトアル
可シ

八 供試品ヲ收容ス可キ容器ハ「セメント」供給者ノ費用ヲ以テ本市備付ノ見本
品ノ通リ調製シ試験口數ニ應差出ス可シ

九 檢査試験ニ合格セサルモノハ本市所定ノ不格合記號ヲ附シテ攬却ス可シ
但シ實驗ノ外形検査ニ合格セサルモノハ此限リニアラス

月二十年六正大

十 檢査試験ノ結果不合格ト決シ捨却シタルモノハ何等ノ理由アルモ再検査試験ヲ請求スルコト得ス

十一 不合格品ハ本市ニ於テ指定スル期限内ニ之レナ引換フ可シ
十二 試験ニ合格シタルモノト雖モ使用ノ際固シタル部分又ハ雜物等ノ混入シアルモノナ發見シタルトキハ本市ニ於テ期限内指定期間内シ其引換リ命スルコトアル可シ

十三 本示方書ニ明記ナキ事項及示方書ノ解釋ニ就テハ總ア本市ノ別定ニ從フ可シ

○物件供給人心得書

第一條 東京市(以下市ト稱ス)ニ於テ何々(便送)用トシテ收受クヘキ何々(物件名)ハ本心得書ニ依リ供給スヘシ

第二條 供給物件ノ構造資質等左ノ如シ

(物件ノ構造資質)
前項ニ記載セサル事項ト雖モ用途上當然必要ナルモノハ主務吏員ノ指揮ニ從ヒ異議ナク供給ノ費用ヲ完備スヘシ

第三條 供給スヘキ設置場所等ハ主務吏員ノ指揮ニ依ルヘシ但市ノ都合ニ依リ供給中止ナ命令スルコトアルモ供給人ハ異議ナ申立ツルニテ得サルハ勿論損害アルモ市ハ補償セサムノトス

第四條 供給物件ハ主務吏員ノ指揮ニ基キ持込検査ノ上受渡ナヌモノトス
前項検査ノ結果損耗品ナ生シタルトキハ指定期日内ニ引替フヘシ此ノ場合ニ於テ搬却品ハ主務吏員ノ指揮ニ依ルヘシ若シ此種搬却ナ履行セサムトキハ市
害アルモ市ハ補償セサムノトス

第五條 供給物件持込運送受渡検査ニ要スル費用ハ供給人ノ負擔トス
第六條 供給人ハ主務吏員ノ承認ナ經シテ自由ニ供給物件ノ移動ナヌヘラ
ラス

第七條 供給物件ハ使用中ト否トナ開ハス天災其他如何ナル事故ニ依リ亡失破損セシト雖モ市ハ損害賠償ノ責ニ任せサムモノトス
第八條 供給物件ハ亡失又ハ毀損シタルトキハ主務吏員ノ指揮ニ從ヒ供給人ニ
於テ直ナニ修理ナヌカ又代品ノ補充チナスヘシ

第九條 供給人ハ市指定ノ様式ニ依リ認証ヲ調製シ日々供給数量ヲ記入シ主務吏員ノ認印ヲ受クヘシ

第十條 左ノ場合ニ於テハ供給物件ノ損耗ヲ支拂ハサルモノトス

一 供給物件不完全ナルカ又ハ修理ノ爲メ使用不能ハサルトキ

一 供給人ノ都合ニ依リ供給物件ヲ移動シタルトキ

アルモ供給人ハ異議ナ申立ツルコトナ得サルハ勿論損害アルモ市ハ補償セサムノトス

第十二條 左ノ場合ニ於テ供給人タルコトナ解キ且損害アルトキハ補償セシムルコトアルヘシ

一 供給人ニ不正ノ行爲アリタルトキ

一 供給物件不完全ナルトキ

一 其他本心得書ニ違背セシトキ

第十三條 前各條ノ外大正二年市告示第二十二號東京市會計規程並同年市告示
第二十三號同上規程施行細則ナ準用ス

○木材防腐劑注入示方書

第一條 注入用木材ノ種類及寸尺數量等ハ別紙圖書ノ通りス但シ丸太ハ皮剥ノモノナ供給ス

第二條 注入藥品ハ別紙示方書ニ從フ純(クレオソート)ニシテ其注入量ハ一立方尺ニ付四升以上トス

第三條 會社ハ契約ノ日ヨリ何日以内ニ於テ掛員ノ指定期限内シ其注入量ヲ分析試驗ノ爲メ相當ノ量ナ酌ミ密封シ掛員ノ檢印ナ受ケ本市試驗所ニ納入スヘシ

第四條 試驗ハ本市衛生試驗所ニ於テ執行ス

試驗ノ結果不合格トナリタルトキハ本契約ハ解除スルモノトス但本市ニ損害アルトキハ賠償セシムルコトアルヘシ

第五條 注入材料ハ凡チ乾燥室ニ容し温度華氏百五十五度以上ヲ保持セシメ充分水氣ヲ排除スヘシ但收縮蒸氣乾燥ニ由ラントスルトキハ許可スルコトアルヘシ

第六條 注入量衡量ノ際ニ於テ本市吏員之立會スヘシ若シ注入量ニ於テ一割以上ノ差アルトキハ更ニ注入點繩ニ容し高度ノ壓持ナ加フルモノトス但一割以上差アルモノハ總體ノ四割以上ナ超ユルヲ許サス

第七條 注入完成度ト雖モ本市起工ノ都合ニヨリ現品ナ受取ラサル間ニ於テハ

之カ保管ノ責ニ任スヘシ

第八條 注入用木材検査及木粉等ノ爲メ材料費相當ノ作業場ニ供スヘシ

第九條 注入完成期間ハ下限ノ日ヨリ何日トス

第二十一条 分割試験 普通ノ方法ニヨリ試験百立方「センチメートル」ノ分割試験ノ結果

（二）分割試験 普通ノ方法ニヨリ試験百立方「センチメートル」ノ分割試験ノ結果

果蒸溜物ハ左記ノ容積割合ナルコト

第十條 氏二百三十五度迄

○木村防腐剤塗抹示方書

第一條 木材防腐剤ハ何々名稱ニシテ製造所ノ證明書ナ添付シ之ヲ證スヘシ

但證書ニハ員數及實測年月日ヲ記載スヘシ

第二條 防腐剤塗抹用木材ハ充分乾燥シタルモノナ撰出シ且木肌ニ汚物等附着

ナク清潔ナシムルベシ

第三條 防腐剤ハ塗抹ニ際シテ其日ノ入用量ヲ料り鋼ニ盛リ^(華)氏何度乃至

第四條 何度「沸騰セサル程度」ノ熟度與ニ検査ヲ受ケ刷毛ナ以テ擦拭ニ塗抹スヘシ

第五條 防腐剤塗抹ハ毎回充分乾燥ヲ認メタル上検査ヲ受ケ次回ノ塗抹ニ從事

第六條 防腐剤塗抹用木材ハ塗抹以前ニ於テ木粉及仕上ナシ塗抹後剤等ヲ

ナスナス若^(シ)已ム得ス^(シ)然サルヘカラントキ或ハ小口ニハ粗立後

第七條 四回以上前項ニ準ニ塗抹スヘシ

第八條 防腐剤塗抹ハ一回毎ニ塗抹ナセハ直ニ検査ヲ受ケ毎回検印ヲ受クヘシ

其標造及面積ノ當否ハ掛員ノ判定ニ由ル

第一條 木村防腐剤ハ注入スル「クレオソート」油ハ本示方書ニ從フヘシ

二 「クレオソート」油ハ石炭ターチヨリ精製シタル蒸溜物ニシテ不純物ナ混入
セサルモノトス

（イ）比重 試量五十立方センチメートルナシ^(ミ)ビクノメートル^(モ)ヲ以テ標

氏十五度ニ於ケル比重ナ計^(リ)一〇乃至一〇七ナルコト

（ロ）狀態 氏三十八度迄徐々ニ熱シ完全ニ液體狀タルコト

（ハ）「ターチヨリ精製 氏十五度ニ於テ比重一、一五ノ苛性鈉液ノ比重ト

諸^(シ)混セシメ候置シテ二層ニ分離シタルキ容積ニ於ケル九「バー」セン

ト」以上ノ減量ナ有スルコト

（二）分割試験 普通ノ方法ニヨリ試験百立方「センチメートル」ノ分割試験ノ結果

果蒸溜物ハ左記ノ容積割合ナルコト

第十條 氏三百五十五度迄

六十三%以上

八乃至三十五%以内

○隅田川口改良工事用切込石炭購買示方書

第一條 隅田川口改良工事用石炭ハ本示方書ニ依リ供給ヲナスヘシ

第二條 供給ノ石炭ハ左記種類ノ切込石炭ニシテ塊炭五割以上粉炭（四分目等
ヲ通過シタルモノ）五割以内トス

第三條 納期及納入場所左ノ如シ但シ本市ノ都合ニ依リ納入場所及納期ナ變更
シ者ハ納入中止スルモノ供給者ハ異議ナ申立ツル事能ナル勿論

第四條 石炭ハ「ハサリ」土砂塵芥等ノ混入セサル精良ノモノタル可シ

第五條 持込ノ都度左記各項ノ試験検査ヲ執行スベシ但シ本市ノ都合上検査ノ

一部ヲ省略スル事アルヘシ

第六條 一般品質検査 何萬斤 東京市土木課河港掛何々出張所指定ノ場所トス

第七條 石炭ハ「ハサリ」土砂塵芥等ノ混入セサル精良ノモノタル可シ

第八條 持込ノ都度左記各項ノ試験検査ヲ執行スベシ但シ本市ノ都合上検査ノ

一部ヲ省略スル事アルヘシ

第九條 一般品質検査 何萬斤 東京市土木課河港掛何々出張所指定ノ場所トス

第十條 石炭ハ「ハサリ」土砂塵芥等ノ混入セサル精良ノモノタル可シ

第十一條 持込ノ都度左記各項ノ試験検査ヲ執行スベシ但シ本市ノ都合上検査ノ

一部ヲ省略スル事アルヘシ

第十二條 一般品質検査 何萬斤 東京市土木課河港掛何々出張所指定ノ場所トス

第十三條 石炭ハ「ハサリ」土砂塵芥等ノ混入セサル精良ノモノタル可シ

第十四條 持込ノ都度左記各項ノ試験検査ヲ執行スベシ但シ本市ノ都合上検査ノ

一部ヲ省略スル事アルヘシ

第十五條 一般品質検査 何萬斤 東京市土木課河港掛何々出張所指定ノ場所トス

第十六條 石炭ハ「ハサリ」土砂塵芥等ノ混入セサル精良ノモノタル可シ

第十七條 持込ノ都度左記各項ノ試験検査ヲ執行スベシ但シ本市ノ都合上検査ノ

一部ヲ省略スル事アルヘシ

第十八條 一般品質検査 何萬斤 東京市土木課河港掛何々出張所指定ノ場所トス

第十九條 石炭ハ「ハサリ」土砂塵芥等ノ混入セサル精良ノモノタル可シ

津並ニ有効汽壓ノ検査ヲ執行ス但シ兩機故障ノ爲メ他ノ船艤ヲ以テ執行ノ場合ハ隨時供試料及汽壓ヲ定期モルモノトス

焚試中保持スヘキ汽壓汽壓ハ何號ニ在リテハ何封度以上トス

灰津ハ燃燈ノ完了ヲ待ツテ之ヲ燃筒ヨリ抽出シ衡器ニヨリテ其割合ヲ検定スルモノトス

三、粉炭検定

本市ニ於テ若干量ヲ抽出シ粉砂ノ筛別ヲナスモノトス

四、水分ノ検定

本市ニ於テ若干量ヲ抽出シ之ヲ行フ此場合ニ於テ豫メ試験品ノ重量ヲ量リ一定ノ容器數個ニ入れ封印シ本市指定ノ場所ニ指定ノ日放送シタル後開封ノ上其重量ヲ量リ重差ノ各平均ヲ採リテ水分子ノ量トシ此ノ減差ノ率ヲ以テ全納入數量ヨリ削減シタル量ヲ以テ検收斤量トシ但シ水分ノ量ハ本市ニ於テ見込ニ以テ其率ヲ認定スル事アル可シ水分検査ハ衡器ナ使用シ

第六條 灰津ハ重量ニ於テ二割六分迄ノ限度トス

第七條 供給者ハ第五條、第一號及第二號ノ試験検査合格後許可ヲ受ケ現品ノ陳揚ヲナスモノトス

附圖目錄細別

第一圖 江戸以前並ニ江戸時代ニ於ケル東京附近

第二圖 隅田川河口改良工事計畫平面圖

第三圖 隅田川附近倉庫分布圖

第四圖其之一 芝浦附近地質調查圖

第五圖其之一 埋立地平面圖

附市街區劃並ニ各種護岸位置

行セサルトキハ本市ニ於テ部分シ其費用ヲ徵取ス

第十四條 檢査済ノ後ト雖モ不良品ヲ發見シタルトキハ供給者ハ指定期間内ニ良品引替フ可シ

第八條 粉炭ノ含有量ハ重量ニ於テ五割以内ナ限度トシ其以上ハ減チ之ヲ输出サシメ排出スルモノトス

第九條 石炭ノ量ハ水準地盤上高ナセ七尺以上ニ正確ニ丈量シ得ラル、様併立テ其容積ヲ計リ換算シテ之ヲ定ム而シテ其換算率ハ一立方尺ニ付四十一斤半トス但シ本市ニ於テ必要ト認ムル時ハ衡器ヲ使用スル事アルヘン

第十條 石炭併立分不完全ナリト認ムルカ又ハ品質検査ノ必要アリト認ムルトキハ供給者ノ費用ヲ以テ取崩シノ上更ニ併立シナシ命スル事アル可シ

第十一條 供給者ハ本市ニ於テ執行スル試験検査ニ立會フ事ヲ得ルモ之レカ方法ニ對シテハ異議ナ申立ツル事ヲ得ス

第十二條 試験検査ニ要スル費用ハ供給者ノ負担トス但シ試験ノ爲メ抽出セリ石炭ハ合格ノ場合ハ検收斤量ニ算入シ不合格ノ場合ハ供給者ノ負担トシ代金ナ支拂ハサルヘシ

第十三條 試験検査ノ結果不格合品ヲ生シタル時ハ期日ヲ定メ引替ヲナサシムヘシ此場合ニ於テ不格合品ハ直チニ供給者ニ於テ引取ル可シ若シ此義務ヲ履

	縮尺	六萬分ノ一	五萬分ノ一	貳萬分ノ一	八千分ノ一	百三十万分ノ一	一千對十三五六米突	一千對六百五十六米突
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
六千分ノ一	六千分ノ一	六千分ノ一						

最強
風向
平均速度
均度
回数

縦横

風向平均速度
均度
回数

第五圖其之二

各種護岸橫斷面圖

第六圖其之一 鋼製自走鋤籠式浚渫船駒形丸

百分ノ一
百三十五分ノ一

第六圖其之二 同 中央切斷面圖

五十二分ノ一

第六圖其之三 同 中央切斷面圖

五十五分ノ一

第六圖其之四 同 中央切斷面圖

百十五分ノ一
百三十二分ノ一

第六圖其之五 同 中央切斷面圖

百二十二分ノ一
九十六分ノ一

第六圖其之六 同 中央切斷面圖

百三十二分ノ一
八十四分ノ一

第六圖其之七 賣田D型ブリストマン式浚渫機第二千代田

中央切斷面百〇二分ノ一
七十七分ノ一

第六圖其之八 鋼製双螺旋式曳船飛鳥丸、凌瀬丸、宮戸丸

八千四百分ノ一
八十四分ノ一

第六圖其之九 木製單螺旋式曳船待乳丸

附假土留板棚

百〇八分ノ一
三十七分ノ一
八千四百分ノ一
八十四分ノ一

各附圖ニハ印刷上ノ都合ニヨリ縮尺ヲ記入セザリシヲ以テ此所ニ細目ヲ調成シ一々其縮尺ヲ示ス

コトヽセリ(編輯係) (完)